

企画書

土浦市マスタープラン策定実習資料

提案者 (所属) MP 実習 1 班 / (氏名) 井下純貴

プロジェクト名称	愛つちうら育育プロジェクト(重点整備計画)
現状(問題点,背景)	平成 23 年度土浦市民満足度調査より土浦への愛着心の項目において若い世代ほど低い値を示している。同様に広報つちうらの購読率も若い世代ほど低い値を示して。土浦は東京へのアクセスが良く、地元における若者の活動が少ないことが考えられる。若い世代に土浦の自然や文化、産業などの土浦が持つ資源についてもっと知ってもらうことが必要である。
目的・趣旨	若い世代に教育を通して土浦のことをもっと知ってもらう場を増やす。土浦の自然や文化について学ぶことで土浦の魅力に気づいてもらい土浦への関心を高めることを目的とする。更に、学習内容を市内外に発信して取り組みを広める。
内容	土浦市内の学校に規範となるシラバスを提示し、それに準じた教育プログラムを組んでもらう。神立商工振興会が積極的に職場体験の取り組みを行っており、その取り組みを活かし社会科見学を行う。また、広報つちうらを使った学習を取り入れることで若い世代にも広報つちうらに親しみを持ってもらう。 ※詳細はシラバス参照
将来目標	将来的に本計画を受けた子どもたちが成人後も土浦に住み続けることで、土浦を若い世代を含めた全ての世代の住民から愛される場所にする。
期間	平成 26 年度～ いくつかモデル校を選定し試験導入 平成 27 年度～ 導入校を増加させて本格実施
場所	土浦市
対象者	小中学校・高校の生徒、市民
運営主体	各学校
運営方法	土浦市教育委員会が提示した指導案に基づき各学校が裁量的に判断を行う。
イニシャルコスト	教材準備費用
資金源	市税
ランニングコスト	各学校の実施費用
資金源	市税
今後の課題	体験学習を行える施設や広報つちうら、あるいは周辺大学との継続的な協力を得る必要がある。

土浦市教育プログラム シラバス

プロジェクト名 称	愛つちうら育育プロジェクト		
到達目標	<p>教育プログラムに地域に密着した学習を取り込むことで子どもたちに土浦のまちのことを考えさせて好きになってもらう。</p> <p>発信・提案型の学習を通し、生徒だけでなく土浦市民全体に取り組みを知ってもらう。</p> <p>各学校に以下の指導内容に準じた教育プログラムを導入し生徒を指導してもらう。</p>		
指導概要	<p>小学校では体験型学習を行い土浦のまちを体で学んでもらう。</p> <p>中学校では発信型学習を行い市民全体に取り組みを知ってもらう。</p> <p>高校では提案型学習を行い土浦市の問題発見から提案を行いまちづくりのノウハウを学んでもらう。</p> <p>また、上級生に下級生をサポートする機会を設けることで多面的かつ理解が深くなる学習とする。</p>		
プログラム例	<p>小学校</p> <p>1年生</p> <p>2年生</p> <p>3年生</p> <p>4年生</p> <p>5年生</p> <p>6年生</p> <p>中学校</p> <p>1年生</p> <p>2年生</p> <p>3年生</p> <p>高校</p> <p>1年生</p> <p>2年生</p> <p>3年生</p>	<p>学習・体験</p> <p>まち歩き探検隊</p> <p>レンコン収穫体験</p> <p>そば打ち体験</p> <p>農業体験</p> <p>社会科見学</p> <p>下級生サポート</p> <p>広報つちうら編集</p> <p>地域の人にインタビュー&報告会</p> <p>土浦市PRホームページ作成</p> <p>土浦まちづくり提案 (大学生や専門家の協力を仰ぎシンポジウム を開催)</p>	<p>} 体験型学習</p> <p>} 発信型学習</p> <p>} 提案型学習</p>